

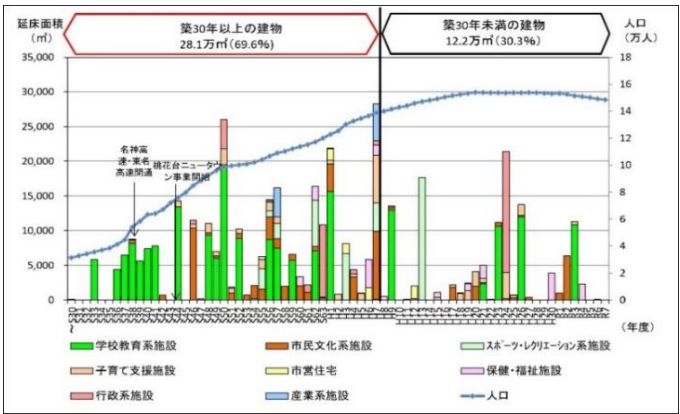
第2章 分野別計画編

(政策の柱) 1.小牧市の経営

1 財政運営

主な課題

- 人口減少と高齢化の進展に伴う課税対象者の減少による減収、国内外の社会経済情勢の影響による企業収益の悪化などが懸念されるため、これらの動向が歳入に及ぼす影響を適切かつ継続して分析するとともに、市税以外の財源の確保にも努める必要があります。(➡施策①)
- 社会保障関連経費※や人件費の増加などの影響により義務的経費※が増加しており、財政構造の弾力性を表す指標である経常収支比率が上昇し、財政の硬直化が進んでいます。コスト意識の徹底、DXによる業務効率化など、多角的な歳出削減が必要です。(➡施策②)
- 本市は、昭和 55 (1980) 年度以降、普通交付税の不交付団体※であり、比較的財政力はあるものの、近年は国の負担で賄われるべき国の政策が、普通交付税によって財政的な手当てがなされているものもあり、本市の財政を圧迫しています。このような外的要因にも耐えうる強固な財政基盤を維持する必要があります。(➡施策③)
- 過去の人口増加時代にあわせて整備した多くの公共建築物やインフラ施設の更新時期が迫っており、施設の維持、更新のための多額の経費が財政を圧迫することが懸念されることから、公共ファシリティマネジメント※を強力に推進していく必要があります。(➡施策④)



関連する計画：

小牧市公共施設長寿命化計画（平成 29 (2017) 年度～令和 28 (2046) 年度）
 小牧市公共施設適正配置計画（平成 29 (2017) 年度～令和 28 (2046) 年度）
 小牧市公共ファシリティマネジメント基本方針（公共施設等総合管理計画）（平成 29 (2017) 年度～令和 28 (2046) 年度）

目指すまちの姿

たゆまぬ業務改善と、稼ぐ力（利益を生む仕組みづくり）で、将来にわたって健全な財政運営を続けられるまちにします。

代表的な指標

指標	令和 7 年度 基準値	令和 12 年度 目標値	令和 16 年度 目標値
経常収支比率	90.1%	90.0% (令和 11 年度)	90.0% (令和 15 年度)
実質収支比率※	4.3%	5.0% (令和 11 年度)	5.0% (令和 15 年度)
実質公債費比率※ (3 か年平均)	0.0%	1.6% (令和 11 年度)	1.6% (令和 15 年度)

施策① 受益者負担※の適正化と歳入確保の強化を推進します

- ・ 受益と負担の適正化を図るため、定期的に使用料・手数料などの見直しを実施します。
- ・ 市税などの収納率向上のため、納付の方法と機会を充実するとともに、より徹底した徴収業務に取り組みます。

施策② 歳出の削減と合理化を推進します

- ・ 執行状況を踏まえた予算査定及び事務の統一化、集約化、手法の見直しなどによる歳出削減に取り組みます。
- ・ 補助金などの適正化を図るため、定期的に見直しを実施します。

施策③ 健全で計画的な財政運営を推進します

- ・ 限られた財政資源を戦略的に投入し、投資的効果を最大化する経営的財政運営に取り組めます。
- ・ 今後見込まれる財政需要に備え、特定目的基金※の積立て・取崩しと、市債※の発行・償還を計画的に進めます。
- ・ 確実性や支払準備のための流動性の確保に留意し、公金管理基準※に即した公金運用を進めます。

施策④ 計画的な公共ファシリティマネジメントを推進します

- ・ 今後の人口動向の予測や施設の利用状況などを踏まえ、他用途への転用や統廃合も含めた公共施設の配置や総量の適正化に取り組めます。
- ・ 施設劣化状況を把握するための施設点検を実施し、長寿命化に向け計画的な改修を推進します。
- ・ 公共施設全体の保全計画に基づき、改修、建替えなどの時期が集中しないよう経費の平準化に取り組めます。

※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
財政運営	施策①	市税収納率	97.9%	98.6%	99.2%
財政運営	施策②	経常収支比率	90.1%	90.0% (令和11年度)	90.0% (令和15年度)
財政運営	施策③	実質公債費比率（3 か年平均）	0.0%	1.6% (令和11年度)	1.6% (令和15年度)
財政運営	施策④	保全計画に基づいて実 施した施設の修繕・改 修件数（累計）	7 件	52 件	88 件

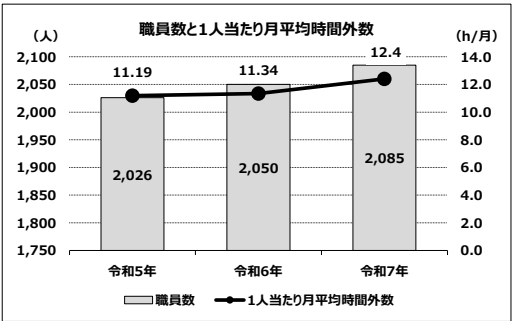
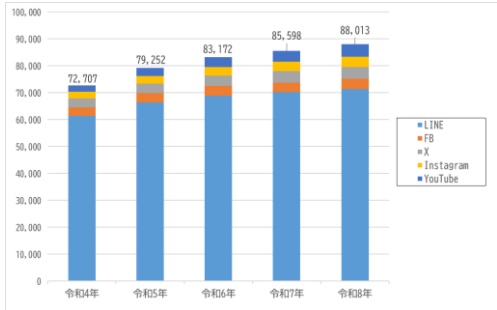
2 行政サービス

主な課題

○ 市民が快適に行政サービスを利用できるよう、申請手続きの簡素化とオンライン化を進めるとともに、デジタルに不慣れな方でも迷わず利用できるサービスを提供する必要があります。また、人口減少により職員確保が難しくなる中、限られた人員で質の高い行政サービスを維持するには、業務の効率化と DX の推進が不可欠です。AI・RPA※の活用や業務見直し、紙業務のデジタル化を進めるとともに、情報セキュリティ対策とガバナンス※を強化し、安全で適正な行政運営を図る必要があります。(➡施策①)

○ デジタル化の進展を踏まえ、市ホームページや SNS に加え、『広報こまき』など紙媒体の段階的なデジタル化を進め、多様な市政情報をタイムリーかつ正確に届ける必要があります。一方で、現在の市ホームページは必要な情報にたどり着きにくく、アクセシビリティ※対応も十分ではないため、利便性・わかりやすさ・アクセシビリティを備え、誰もが必要な情報を確実に取得できる環境整備が求められています。(➡施策②)

○ 自治体の採用競争は激化しつつあり、持続可能な自治体経営には、限られた経営資源を有効活用しつつ、職員の育成と多様な人材の確保・活用が不可欠です。また、定年延長を踏まえた定数管理や高齢期職員の活躍支援を進めるとともに、内部統制※の適切な運用、ハラスメント防止、働きやすい職場環境づくりが重要です。(➡施策③)



関連する計画：

人材育成・確保基本方針（令和 8（2026）年度～）

特定事業主行動計画（令和 9（2027）年度～令和 12（2030）年度）

障がい者活躍推進計画（令和 7（2025）年度～令和 12（2030）年度）

目指すまちの姿

DX 推進により、効率的な行政運営を実現し、誰もが情報を得て安心して負担なく利用できる質の高い行政サービスを持続的に提供するまちにします。

代表的な指標

指標	令和 7 年度 基準値	令和 12 年度 目標値	令和 16 年度 目標値
オンライン申請割合	60.0%	65.0%	70.0%
市 SNS (Facebook、X、LINE、YouTube、Instagram) のフォロワー数	85,598 人	89,598 人	93,598 人
職員 1 人当たりの時間外勤務時間	12.4h/月	11.0h/月	10.0h/月

施策① AX や DX を推進し、市民サービスの向上と効率的な行政運営を実現します

- ・ デジタル市役所を充実するなど申請手続きの簡素化とオンライン化を推進し、市民がいつでも・どこでも行政サービスを利用できる環境を整備します。
- ・ 生成 AI を含むデジタル技術を、定型業務の自動化や施策の企画立案支援などに活用し、業務全般の効率化と市民サービスの迅速化を図ります。
- ・ 業務プロセスの見直しや組織横断的な DX を推進し、限られた人員で質の高いサービスを提供できる体制を構築します。
- ・ デジタルに不慣れな方でも迷わず利用できる行政サービスの提供に取り組み、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる環境を整えます。
- ・ 情報セキュリティ対策を強化し、クラウドサービス※などを活用した業務効率化と安全な行政運営を両立します。

施策② 市政情報の発信と市民との双方向コミュニケーションを推進します

- ・市ホームページや SNS などの多様なデジタル媒体や二次元コードなどのデジタル技術を活用し、幅広い年代へ市政情報を迅速かつわかりやすい形で発信します。
- ・市の知名度向上やイメージアップ、市民の郷土愛の醸成を目指し、「小牧市ふるさとアンバサダー」制度※を活用した効果的な情報発信に取り組みます。
- ・『広報こまき』など、紙媒体の段階的なデジタル化を進めます。
- ・市民からの問合せに自動応答する AI チャットボット※の活用に取り組みます。
- ・市の重要な施策や新たな取組などを職員がわかりやすく解説する動画を作成します。

施策③ 人的資本を生かす人材マネジメントのもとで、働きやすい職場環境の整備とコンプライアンス※の推進を図ります

- ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、時間外勤務の縮減、年次有給休暇の取得促進を図り、働きやすい職場環境を整備します。
- ・健康経営優良法人※の考え方に基づいた健康保持・増進に配慮した快適な職場環境を維持します。
- ・新規採用職員の着実な確保による適正な人員配置を実現します。
- ・職員一人ひとりの可能性を広げる多様な研修制度を拡充し、自発的な能力開発を後押しするとともに、挑戦や成果が正当に報われる人事評価制度への改革を進めます。
- ・パワー・ハラスメントやセクシャル・ハラスメントなどの防止と排除、カスタマーハラスメントの防止を目指し、相談体制などの充実を図り、働きやすい職場環境づくりを進めます。
- ・内部統制制度を活用しながら、適正な事務を遂行します。

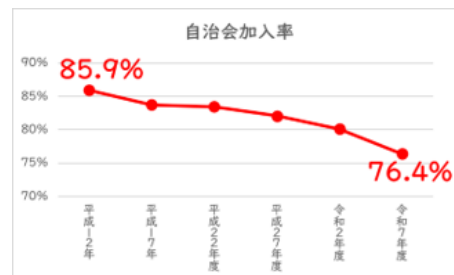
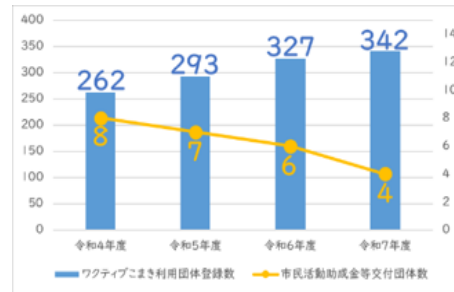
※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
行政サービス	施策①	オンライン申請割合	60.0%	65.0%	70.0%
行政サービス	施策②	チャットボットにより市民の問合せに回答できた割合	令和9年度に設定予定		
行政サービス	施策②	デジタル媒体による広報こまきの閲覧数	15,359 件	19,359 件	23,359 件
行政サービス	施策③	健康経営評価・改善度（偏差値）	46.8	48.6	50.0

3 協働

主な課題

- スポットのボランティア活動のマッチング支援である「ボランティア情報配信 LINE」の利活用は堅調ですが、こまき支え合いいきいきポイント制度※の活動者数は近年横ばい傾向です。ボランティア活動のすそ野を広げるため、制度に関わらず、受入団体、活動者双方のニーズに対応した運用を検討していく必要があります。(➡施策①)
- こまき市民交流テラス「ワクティブこまき」※を拠点として、市民活動団体の支援に取り組んでいますが、助成金制度や協働提案事業化制度※については十分な活用が図られていない状況です。今後は、市民活動団体のニーズを的確に把握し、その結果に応じて各種制度の見直しを検討する必要があります。(➡施策②)
- 令和7（2025）年度末時点において14小学校区で地域協議会が設立され、様々な活動が実施されています。引き続き、地域協議会への活動に対する支援を継続するとともに、学校再編に伴う地域協議会の再編についても支援していく必要があります。(➡施策③)
- 区（自治会）は、地域の親睦を図るとともに、防災・防犯活動や環境美化活動など、住みよいまちづくりに向けた様々な活動に取り組んでいますが、加入率の低下や区長・役員の担い手不足などにより、活動の継続が難しくなりつつあります。引き続き、地域活動の支援を継続するとともに、持続可能な自治会運営についても支援していく必要があります。(➡施策③)
- 防災・減災、公共交通、医療・福祉、脱炭素化への対応、デジタル技術や生



成 AI の活用など、現代の地域課題は複数の分野にまたがり、広域的な視点や専門的な知見を必要とするものが増えており、市単独での取組では十分な効果を発揮することが難しい状況となっています。(➡施策④)

関連する計画：

まちを育む市民と行政の協働ルールブック

目指すまちの姿

市民活動や地域活動に取り組む多様な主体が支え合いながら、共通の目的や目標に向かって主体的に活動できるまちにします。

代表的な指標

指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
ボランティア情報配信 LINE によるマッチング数	92人 (令和6年度)	150人	200人
ワクティブこまき利用登録団体数	342団体	350団体	360団体
連絡網アプリケーションを活用する区（自治会）の割合	20.9%	65.0%	100%

施策① ボランティア活動の活性化を図ります

- ・ ボランティア情報配信 LINE を活用し、スポット的な活動ニーズに対応します。
- ・ デジタル技術などの活用を含め、こまき支え合いいきいきポイント制度の改善、見直しを行います。

施策② 多様な主体による市民活動を支援します

- ・ 市民活動に取り組む多様な主体に対して、「ワクティブこまき」を拠点に幅広い情報提供や的確な相談支援に取り組みます。
- ・ 市民活動団体の活動をより一層支援するため、現行制度の改善、見直しを行います。

施策③ 地域コミュニティの活動を支援します

- ・ 地域協議会の活動について引き続き支援を行うとともに、活動の目的・意義を市民と共有しながら、主体的な活動を促します。
- ・ 地域のコミュニティ活動の拠点として、西部及び南部コミュニティセンターの適切な施設運営に取り組みます。
- ・ 区長や役員などの事務負担軽減や自治会運営の効率化を図るため、連絡網アプリケーションの導入など、デジタル化の推進に取り組みます。

施策④ 多様な主体との連携・共創を推進します

- ・ 近隣自治体や民間などとの広域的な連携・共創により、地域課題の解決や行政サービスの向上を図ります。

※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
協働	施策①	ボランティア情報配信LINEによるマッチング数	92人 (令和6年度)	150人	200人
協働	施策②	ワクティブこまき利用登録団体数	342団体	350団体	360団体
協働	施策③	連絡網アプリケーションを活用する区（自治会）の割合	20.9%	65.0%	100%
協働	施策④	協定などを締結した事業者などと連携して実施した事業数	67件	70件	75件